

JOGA22用(2018年9月15日)Abstract

中部千島列島の繁殖地域（シャシコタン島）で初めて発見・撮影された 26羽のシジュウカラガン

(2018年8月31日宮城県大崎市における記者会見資料より)

日本雁を保護する会 呉地正行
仙台市八木山動物公園 阿部敏計

【発見の意義】

- 中部千島列島シャシコタン島で幼鳥多数を含むシジュウカラガン 26羽の群れが発見され撮影された。
- シジュウカラガンは1995年からの千島列島エカルマ島での放鳥事業（仙台市八木山動物公園、日本雁を保護する会）の成果が上がり、ほぼ絶滅していた群れは羽数回復し、越冬地の観察数は近年増加し、昨年度は5000羽に達した。
- 一方、繁殖地の千島列島でのシジュウカラガンの情報は殆どなく、エカルマ島の北東約35kmのオンネコタン島で鳴き声や数羽の観察記録があるだけで、その解明が今後の課題となっていた。
- 今回の観察は、シジュウカラガンが繁殖期にまとまった群れで発見されその詳細が観察・記録された初めての事例で、シジュウカラガンの繁殖期の生態を知るうえで、非常に貴重な記録である。
- 撮影された写真を詳細に検討した結果、この群れの4割以上がその年生まれの幼鳥であることが分かった。
このことはこれらのシジュウカラガンが、中部千島列島で確実に繁殖を行っていることを示す初めての証しで、将来実施が検討されている千島列島の繁殖地調査計画策定にとっても重要な情報となる。
- シャシコタン島は1995年から2010年までシジュウカラガンの放鳥が行われたエカルマ島の南東約6kmに位置した無人島である。20世紀初頭に、当時日本領だった中部千島の多くの島では国策で多数のキツネが毛皮採取の目的で放飼された。それがシジュウカラガンを絶滅に追いやったが、シャシコタン島ではキツネ放飼は行われていない。

【発見の経緯】

- ・2018年8月に、千島列島アドベンチャークルーズ（企画 西遊旅行）が行われ、カムチャツカ（ペトロパブロフスク・カムチャツキー）を起点に、中部千島南端のウルップ島までを、チャーター船（アフィナ号）で往復し、千島の自然を満喫する10泊11日のツアーが行われた。

・8月11日11時頃、ゾディアックボート（複合型ゴムボート）でシャシコタン島西部沿岸をクルーズ中に、26羽のシジュウカラガンが南（シャシコタン島方向）から飛来し、その23羽がボートと島の間の海域に舞い降りたのが参加者により発見された。

・ボートがシジュウカラガンの群れに接近すると、23羽の群れは再び飛び立ち北方向へ向かった。

・この間、ボートから参加者の私市一康（きさいち かずやす）さん（千葉県鎌ヶ谷市在住）によって撮影が行われ、シャシコタン島を背景に海面に降りている群れ、飛び立つ群れ、飛翔中の群れなど鮮明な写真が撮影され、それを日本雁を保護する会に提供していただいた。

・同ツアーの全貌については、このツアーに参加されたホビーズ・ワールドの吉成才丈（よしなり・としたけ）さんから詳しく教えていただいた。

・なおこの情報はチャーター船のクルー（Nikolay Pavlov氏）を通じて、シジュウカラガン・プロジェクトのロシア側責任者のNikolay Gerasimov博士に届き、寄港後に博士と観察者の情報交換も行われた。

【観察されたシジュウカラガンの群れの構成】

観察&写真撮影地：千島列島シャシコタン島西部沿岸海上

撮影年月日：2018年8月12日11時頃

撮影者：私市一康（きさいち・かずやす）さん；写真提供をしていただいた。

状況：26羽の群れが南（シャシコタン島上空）から飛来し、同島西の海面に降りた。その時に3羽は別行動でその後の動向は不明。残りの23羽について、写真撮影した。

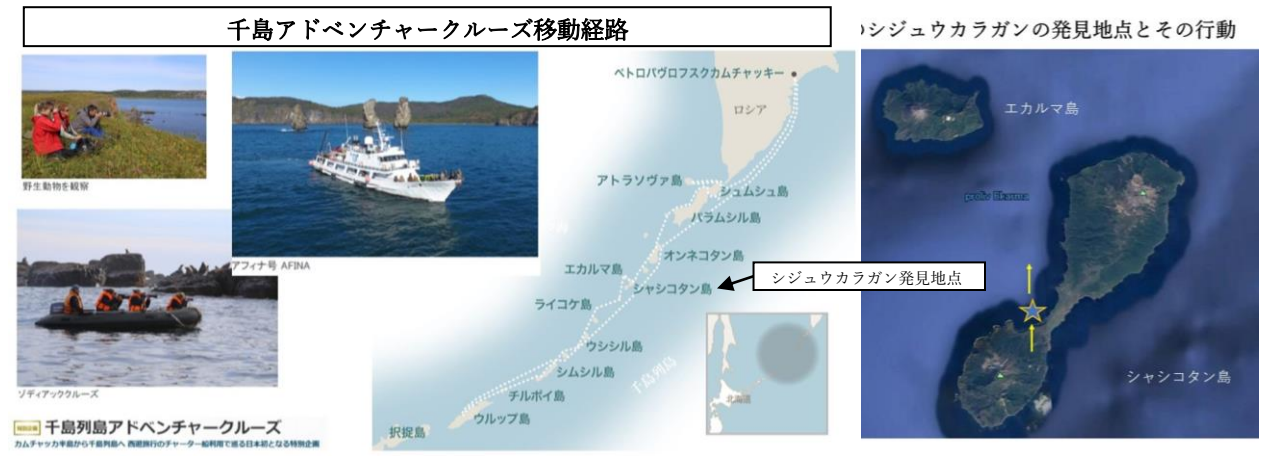
幼鳥比：写真から識別できる成鳥（白首輪あり）、幼鳥（白首輪なし、雨覆いの羽縁の白線が波打っている）の比率を調べたところ、0.44となった。このことから[23羽の群れの構成]=成鳥13羽、幼鳥10羽となる。この中には少なくとも2または3家族が含まれていると思われる。3家族とすると家族群の親鳥は最大6羽となり、残りの7羽の成鳥は非繁殖鳥（前年生まれの若鳥）の可能性が高い。別群の3羽は群れ構成は不明。

【今後の課題】

・個体群動態を把握するために、総数と共に、繁殖成鳥数、非繁殖成鳥数、幼鳥数を把握する必要がある。

・個体群全体の幼鳥比は非繁殖成鳥がどのくらいいるか（他のガン類では非繁殖成鳥だけで大きな群れをつくる）で変わってくるので、今回の数値が個体群全体の幼鳥比を表すとは言えない。

- ・今回の観察で、8月12日現在で成鳥は換羽を完了し、幼鳥も外見上殆ど成鳥と区別できないほどまでに育っているように見える。
- ・比較的低緯度で繁殖するシジュウカラガンの場合、極地で繁殖するマガンなどより、繁殖および換羽の開始時期が早いことが想像される。この点を今後の調査で確認する。
- ・湖沼等の水域がない、エカルマ島やシャシコタン島で、シジュウカラガンがどのように水環境を利用しているのかを知ることは、他の島への分布拡大や繁殖の可否を考えるうえで重要で興味深く、今後の調査のポイントにもなる。



シャシコタン島で発見・撮影されたシジュウカラガンの群れ

② シャシコタン島西の海面から飛び立つシジュウカラガンの群れ

写真・情報提供；私市一康さん

③ シャシコタン島西の海面から飛び立ち、北へ向かうシジュウカラガンの群れ

ロシア側のスタッフのニックさんはゲランモフ博士の知り合い。シジュウカラガン発見の知らせをニックさんから受け取ったゲランモフ博士は寄港後ホテルで関係者から聞き取り。

① 南から飛来し、シャシコタン島西の海面に降りたシジュウカラガンの群れ

観察用のゾディアック(ボート)から群れを観察した。

④ シャシコタン島西の海面から飛び立ち、北へ向かうシジュウカラガンの群れ